

# 道 路 交 通 騒 音 の 状 況

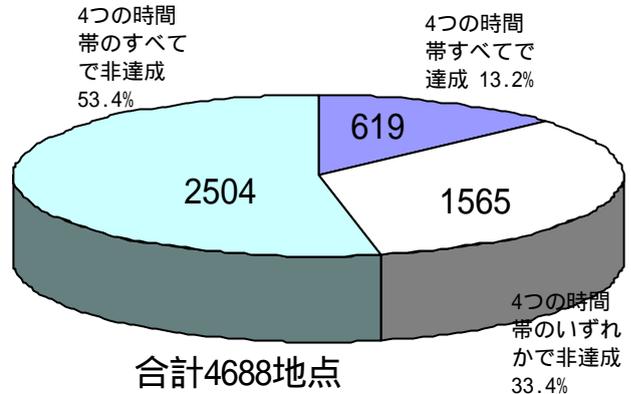
# 道路交通騒音の状況

## 1. 環境基準の達成状況（平成 10 年度）

### (1) 全測定地点における環境基準の達成状況

全国の測定地点（4,688 地点）のうち、4つの時間帯（朝、昼間、夕、夜間）すべてで環境基準が達成されたのは、619 地点（13.2%）と平成 9 年度（13.3%）とほぼ同様の水準となっている。

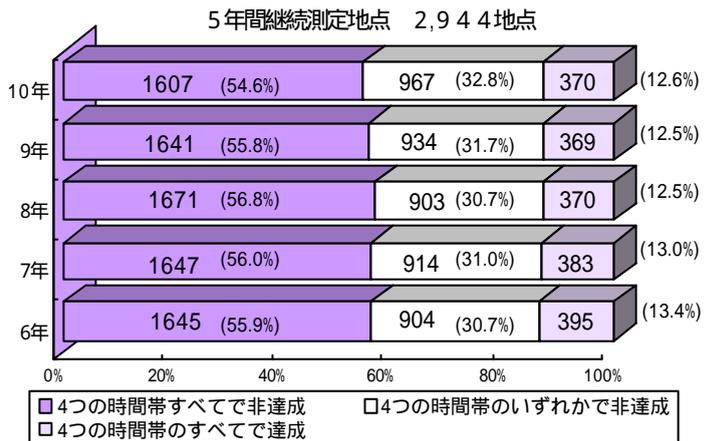
また、環境基準が達成されなかった測定地点のうち、4つの時間帯すべてで達成されなかったのは、2,504 地点（53.4%）、4つの時間帯のいずれかで達成されなかったのは、1,565 地点（33.4%）であった。



### (2) 継続測定地点における環境基準達成状況の推移

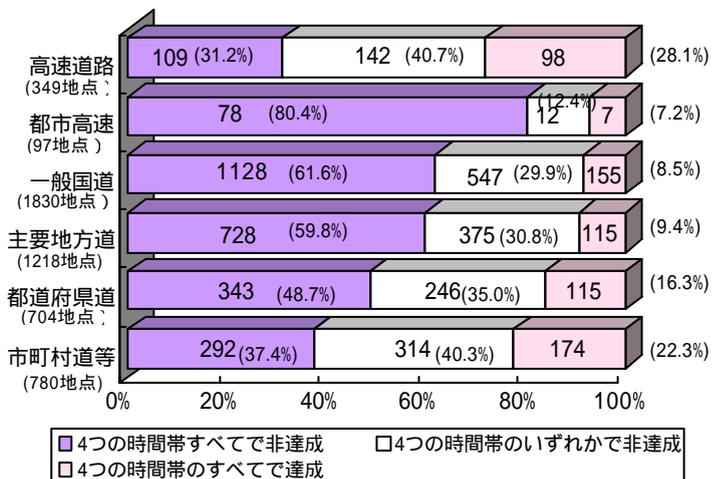
5年間継続して測定を行っている地点（2,944 地点）を対象とした環境基準の達成状況の推移を見ると、4つの時間帯すべてで環境基準が達成された測定地点は、370 地点（12.6%）で平成 9 年度の 369 地点（12.5%）と同様の水準であり、過去 5 年で見ても依然低い水準で推移している。

注）平成 7 年度までは暦年（1～12 月）により集計していたが、8 年度より年度（4～3 月）による集計とした。



### (3) 道路の種類別に見た環境基準の達成状況

道路の種類別に環境基準の達成状況を見ると、4つの時間帯すべてで環境基準が達成された測定地点の割合は、高速道路の 28.1%（349地点中98地点）が最も高く、逆に都市高速道路が 7.2%（97地点中 7 地点）と最も低い。注）測定地点が 2つ以上の道路の影響を受けている場合は、それぞれの道路について集計したため、測定地点の合計は全測定地点数を上回る。



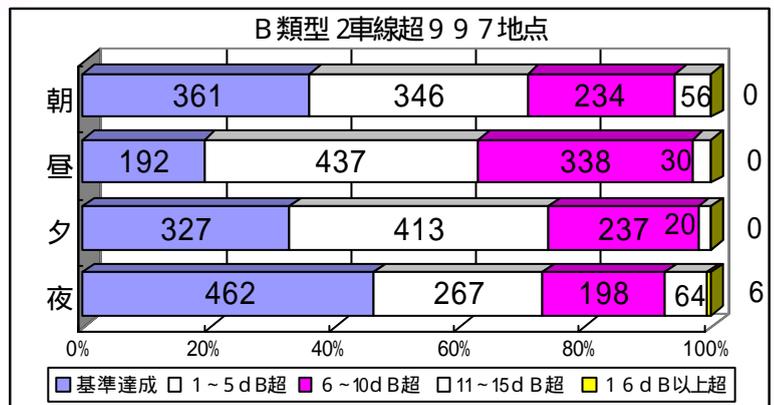
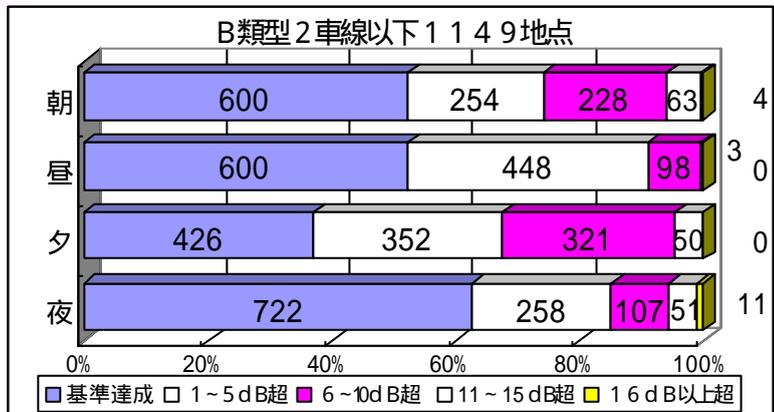
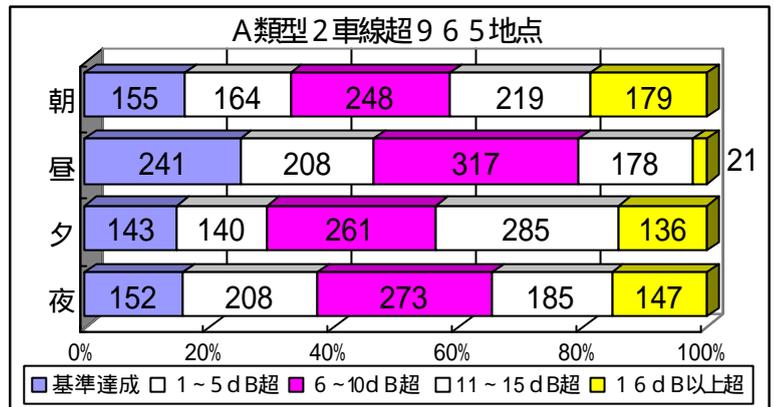
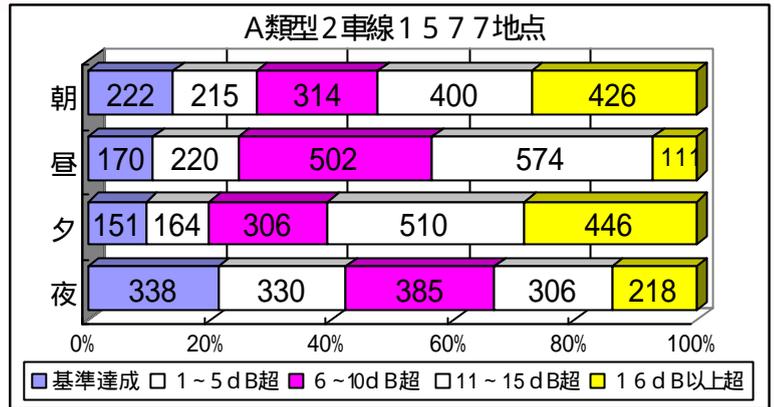
(4) 時間帯・地域の区別に見た環境基準の超過状況

時間帯・地域の区別に環境基準の達成状況及び超過している騒音値をみると、B類型（主として商業地域）の方がA類型（主として住居地域）よりも、ほとんど全ての時間帯において達成率・超過状況ともに、良好な値を示している。

環境基準達成率をみると、B類型2車線以下の夜間で最も高く62.8%となっており、A類型2車線の夕方において9.6%と最も低くなっている。

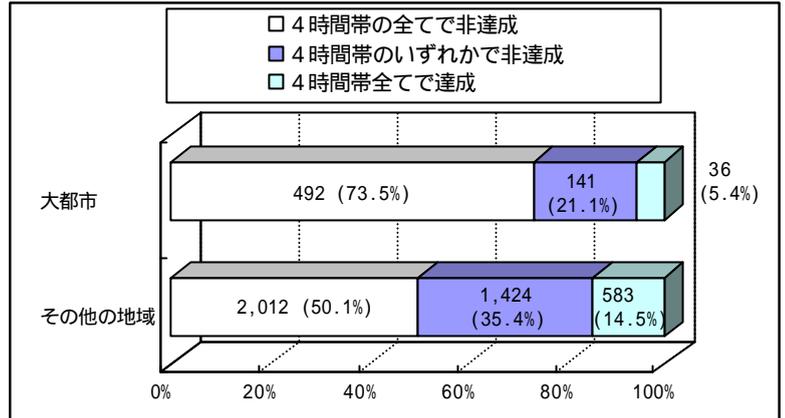
また、環境基準値を16dB以上超過している地点はA類型2車線の朝・夕の時間帯で最も多くそれぞれ27.0%、28.3%となっているが、B類型について見ると、16dB以上超過している地点は0地点~11地点（0~1%）と極めて低い値を示している。

また、4つの時間帯毎に見ると、夜間の環境基準達成率が最も高く35.7%となっている。



( 5 ) 大都市とそれ以外の地域でみた環境基準の超過状況

大都市地域（東京 23 区及び 12 政令指定都市）とそれ以外の地域で環境基準の達成状況を比較すると、4 時間帯すべてで環境基準が達成された測定地点の割合は、大都市地域においては 5.4%（669 測定地点中 36 地点）であり、それ以外の地域の 14.5%（4,019 測定地点中 583 地点）に比べかなり低くなっている。

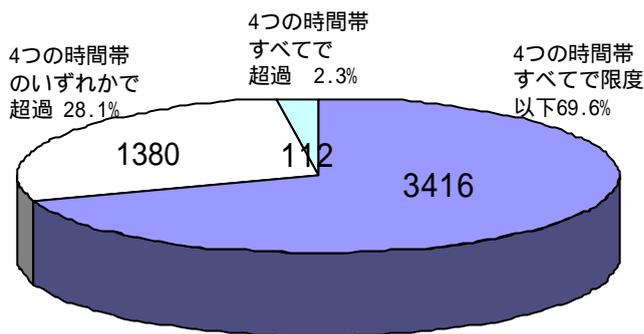


( 注 ) 平成 10 年 9 月 30 日付けで騒音に係る新環境基準が告示され、平成 11 年 4 月 1 日から施行されているが、本資料は全て新環境基準施行前に測定された結果であるため、旧環境基準によるものである。

## 2. 要請限度の超過状況（平成10年度）

### (1) 全測定地点における要請限度の超過状況

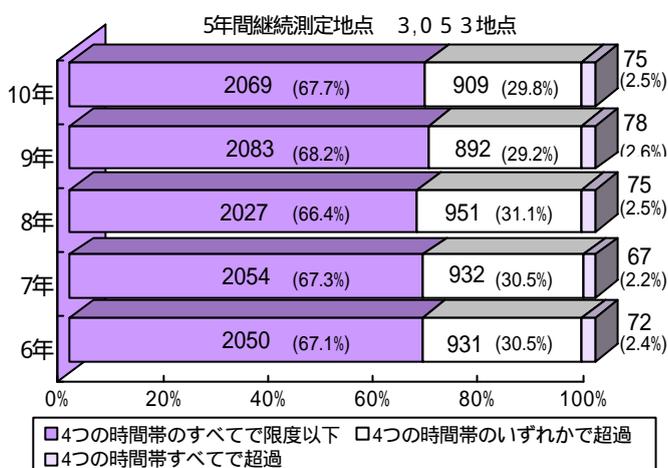
全国の測定地点（4,908地点）のうち、要請限度を超過したのは1,492地点（30.4%）であった。このうち4つの時間帯すべてで要請限度を超過したのは112地点（2.3%）、4つの時間帯のいずれかで超過したのは1,380地点（28.1%）であった。



合計4908地点

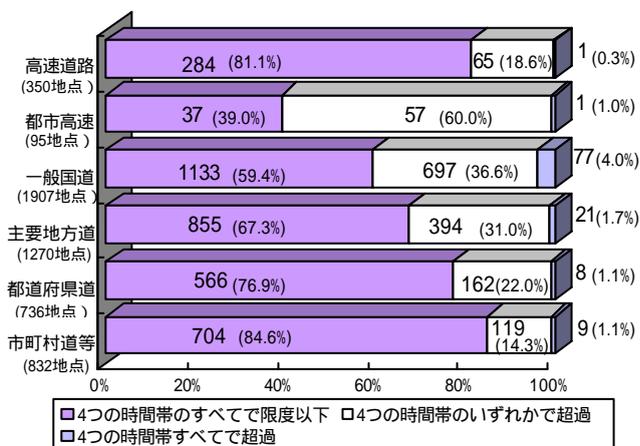
### (2) 継続測定地点における要請限度の超過状況の推移

5年間継続して測定を行っている地点（3,053地点）を対象とした要請限度の超過状況の推移を見ると、4つの時間帯すべてで要請限度を超過した測定地点は75地点（2.5%）で前年度の78地点（2.6%）と比較してほぼ横這いである。また、4つの時間帯のすべて又はいずれかにおいて要請限度を超過した測定地点は984地点（32.3%）で平成9年度の970地点（31.8%）を若干上回っており、過去5年間でみると引き続き高い水準で推移している。



### (3) 道路の種類別に見た要請限度の超過状況

道路の種類別に要請限度の超過状況を見ると、4つの時間帯すべてで要請限度を超過した測定地点の割合は、一般国道が4.0%（1,907地点中77地点）と最も高い。また、4つの時間帯のすべて又はいずれかで要請限度を超過した測定地点の割合は、都市高速道路で61.0%（95地点中58地点）と最も高く、市町村道等で15.4%（832地点中128地点）と最も低い。

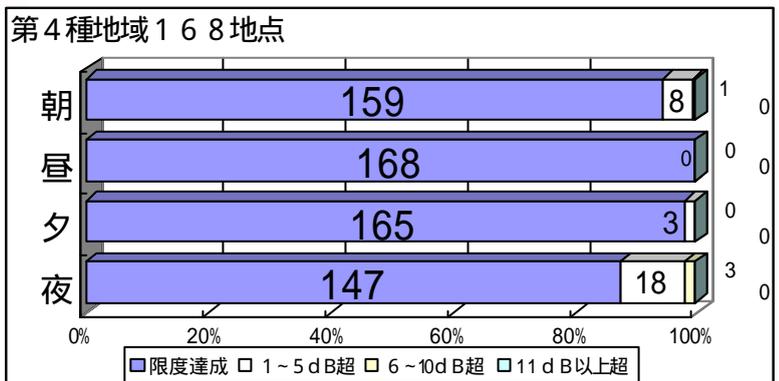
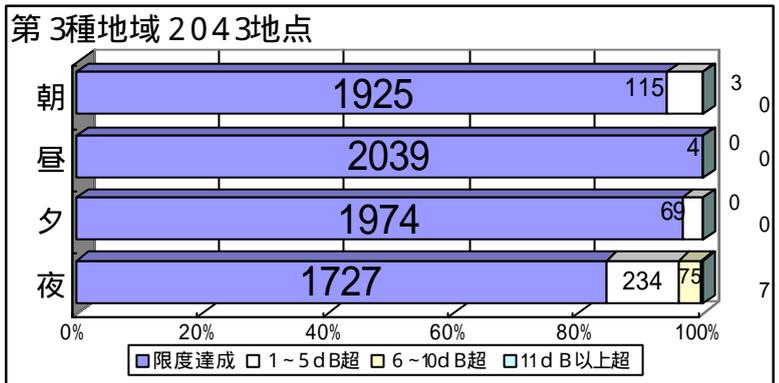
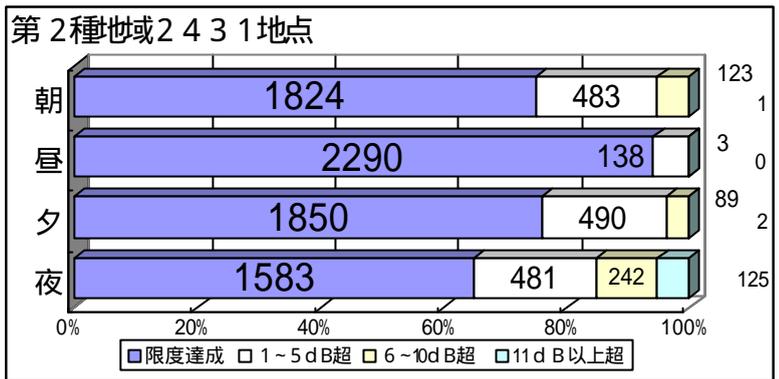
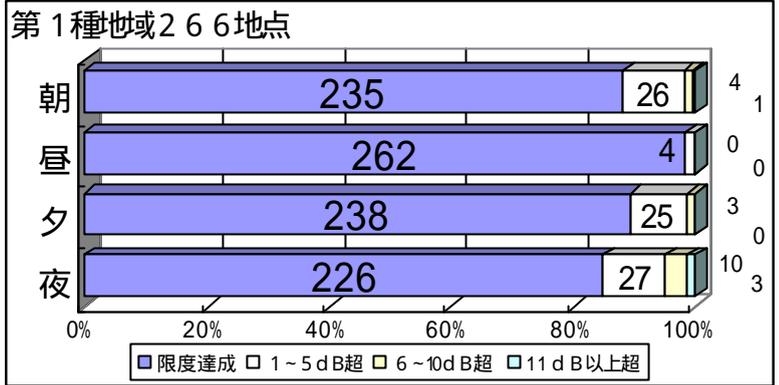


(4) 時間帯・地域の区分別に見た要請限度の超過状況

時間帯・地域の区分別に要請限度の超過状況及び超過している騒音値を見ると、どの地域においても夜間の超過割合が最も高く（全測定地点合計で1,226地点（25.0%））、昼間の超過割合が最も低くなっていた（同150地点（3.1%））。

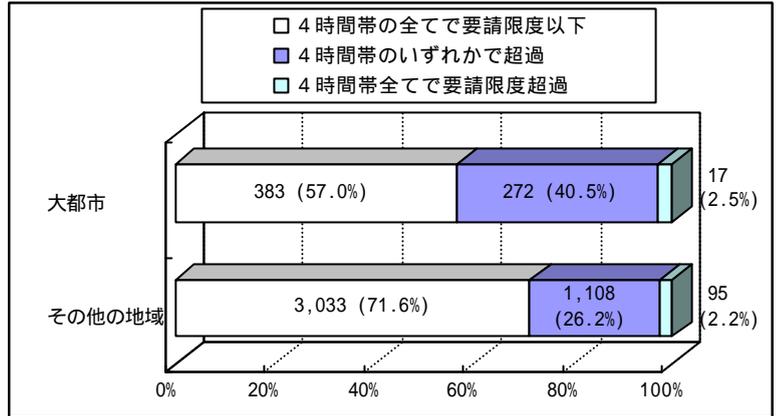
種類別超過割合について見ると、第2種地域の夜間の超過割合が最も高く、（2,431地点中848地点（34.9%））、第4種地域の昼間超過割合が最も低かった（168地点中0地点（0%））。

また、超過している騒音値について見ると、昼間の時間帯では11dB以上超過している地点が無かったのに対し、夜間においては、合計135地点（（2.8%）うち23地点が16dB以上超過）となっている。



( 5 ) 大都市とそれ以外の地域で見た要請限度の超過状況

大都市地域(東京 23 区及び 12 政令指定都市)とそれ以外の地域で要請限度の超過状況を比較すると、4 つの時間帯すべてで要請限度を超過した測定地点の割合は、大都市地域が 2.5%(672 測定地点中 17 地点)と、それ以外の地域の 2.2%(4,236 測定地点中 95 地点)と比べてやや高く、4 つの時間帯のすべて又はいずれかにおいて要請限度を超過した測定地点の割合を見ても、大都市地域においては 43.0%(289 地点)と、それ以外の地域の 28.4%(1203 地点)と比べ高い。



(注) 平成 12 年 3 月 2 日付けで自動車騒音に係る要請限度が公布され、平成 12 年 4 月 1 日から施行されているが、本資料は全て新要請限度施行前に測定された結果であるため、旧要請限度によるものである。

(注) 出典：平成 10 年度自動車交通騒音実態調査報告 (環境庁)